所　報

一九九〇年一月から十二月末までの期間における社会科学研究所の主な諸活動は以下のとおりである。

一　機構および人事

(一)　所員総会

1　第五十五回定例所員総会（一九九〇・六・九、神田校舎12A会議室）

議事　(1)弘田康生所員を議長に選出、(2)三輪所長挨拶、(3)新所員・研究参与・特別研究員・新運営委員委嘱の報告、(4)一九八九年度事業報告ならびに決算報告、会計監査報告―報告を承認、(5)一九九〇年度事業計画案ならびに実行予算案―原案通り承認決定、(6)恒例の夏の合宿研究会をとりやめ、春の合宿研究会に力を注ぐこと、社会科学研究所創立四十周年記念事業（研究会とパーティー）を実施すること―計画を承認、(7)第五十四回定例所員総会で継続審議とされ、一月三十日の運営委員会で改めて審議された、イ、社研役職の選出方法、『年報』の縦組み構成―現行通りを確認、ロ、『年報』の投稿論文のレフリー制導入、編集権確立―継続扱いとして折をみて再考、ハ、三部門のあり方―再度検討するとされた。

2　第五十六回定例所員総会（一九九〇・十二月十五日、生田校舎図書館第二閲覧室）

議事　(1)福島義和所員を議長に選出、(2)三輪所長挨拶、(3)新所員・新運営委員委嘱の報告、(4)一九九〇年度事業経過報告・実行予算経過報告・事務局活動報告―報告を承認、(5)一九九一年度事業計画案・要求予算案―原案通り承認決定、(6)一九九一・九二年度社研役職改選が行われ、所長に麻島昭一所員、事務局長に高橋祐吉所員、会計監査に黒川保美所員、第一（総合理論）部門部長に玉垣良典所員、第二（現状分析）部門部長に加藤佑治所員、第三（歴史）部門部長に加藤幸三郎所員がそれぞれ選出された、(7)イ)PC9801リースに関して、ロ)社研個人研究助成の増額に関して、ハ)特別研究員の研究体制に関して、ニ)社研予算の増額に関して、ホ)学生への公開講演会の積極化に関して話し合われた。

(二)　運営委員会・事務局の構成

(1)一九九〇年度の運営委員は、所長三輪芳郎所員、事務局長泉武夫所員、第一部長玉垣良典所員、第二部長加藤佑治所員、第三部長加藤幸三郎所員（以上第五十二回総会で選出）の他に、経済学部長として八月三十一日まで二瓶敏所員、九月一日から西岡幸泰所員、松浦利明所員（経済学部）、隅野

隆徳所員（法学部）、青木弘明所員（商学部）、伊東洋三所員（経営学部）、土井正興所員（文学部）の十一所員によって構成されている。(2)事務局は三輪所長、泉事務局長、奥村輝夫所員、西村弘所員（以上財政）、柴田弘捷所員、野口旭所員、石村修所員（以上研究会）、矢吹満男所員、大谷正所員、石塚良次所員（以上編集）、作間逸雄所員、村上俊介所員（以上文献資料）、石塚所員、村上所員（以上パソコン、兼任）の十二所員によって構成されている。

(三) 所員・研究参与等の移動

所員　内藤幸一郎氏（経済学部助教授）が一月三十日の運営委員会の議を経て、坂本武憲（法学部教授）、小林弘和、小林和一（以上法学部助教授）の三氏が二月十八日の運営委員会の議を経て、土井正興氏（文学部教授）が四月十一日の運営委員会の議を経て、加藤浩平（経済学部助教授）、深澤民司の二氏（法学部講師）が四月二十七日の運営委員会の議を経て、それぞれ四月一日付で所員に委嘱された。堀江洋文氏（経済学部講師）が七月十日の運営委員会の議を経て所員に委嘱された。上村達男、須田美矢子、平井俊顕の三氏は退職により所員を解嘱された。

研究参与　儀我壮一郎、田路健一両前所員が六月二日の運営委員会の議を経て研究参与に委嘱され、平館利雄元研究参与が七月十日の運営委員会の議を経て再度研究参与に委嘱された。

特別研究員　阿部壮一、高梨健司（以上専大大学院経済学研究科博士課程単位取得）、矢吹芳洋（同上法学研究科博士課程単位取得）の三氏が六月二日の運営委員会の議を経てひき続き特別研究員に委嘱された。

以上により第五十六回定例所員総会時における所員は百二十七名、研究参与は十七名、所外研究員は三名となった。

二　研究調査活動

(一) 社研プロジェクト研究

「転換期の世界と日本」

一九八九年度に新たに発足した上記テーマの社研プロジェクト研究は、二年目に入る本年度においても、プロジェクト研究代表吉田震太郎所員、事務局野口旭所員の下に、理論部会「現代資本主義とリストラクチュアリング」、金融部会「金融革命」、産業・企業部会「産業・企業構造の転換」を中心に、活発な活動を行っている。

一九九〇年の研究活動は次の通りである。

〈プロジェクト全体会議の開催〉

(1)五月十二日（土）二時半～神田社研

「今後のプロジェクト研究活動の見通しについて」

(2)六月二十三日（土）十時半～神田社研
「プロジェクト産業部会の今後の進め方について」
(3)七月二十四日（火）九時半～神田社研
「プロジェクト産業部会の成果報告の進め方について」
(4)九月十六日（日）十時～生田社研
「プロジェクト産業部会の研究報告について」
〈プロジェクト研究会の開催〉
(1)三月一日（木）～三日（土）調査合宿研究会
三月一日　上越市の General Observation
報告者　市役所商工観光課係長ほか
テーマ　「上越市直江津地区の産業の展開」
三月二日　工場調査―直江津テクノセンター、化成直江津、新エムイーシーアロイ、日本ステンレス直江津製造所
なお、この調査は社研春季合宿・集中研究会を兼ねて行なった。
(2)四月十七日（火）三時半～生田社研
産業部会
報告者　矢吹満男所員
テーマ　「リストラクチュアリング期の日米関係」
(3)六月二十三日（土）一時～神田社研
産業部会
報告者　林倬史氏（立教大学教授）
テーマ　「日米技術開発戦略」
報告者　山地憲治氏（電力中央研究所）
テーマ　「日本の技術力」
(4)七月二十四日（火）二時～神田社研
金融部会
報告者　熊野剛雄所員
テーマ　「はたして日本は金融大国か」
(5)十月三十日（火）一時～神田社研
産業部会
報告者　矢吹満男所員
テーマ　「一九八五年を画期とする日米関係の転換」
報告者　野口旭所員
テーマ　「国際貿易と構造変化」
(6)十二月二十一日（金）一時～神田社研
産業部会
報告者　溝田誠吾所員
テーマ　「鉄鋼業」
報告者　沖田健吉氏（中国短期大学教授）
テーマ　「エンジニアリング産業」
報告者　水川侑所員
テーマ　「自動車工業」

(二)　定例研究会

(1)二月二十六日（月）二時～神田8C会議室
〔社研グループ研究「カントリー・リスクの実証的研究」Gとの共催〕
テーマ　「ペレストロイカの現状とゴルバチョフの今後」
報告者　下斗伸夫氏（法政大学）
(2)六月十九日（火）四時半～生田社研
テーマ　「ソ連経済の現状と改革の展望」
報告者　A・I・クラブェービッチ氏（在日ソ連大使一等書記官・経済担当）
(3)七月十七日（火）二時五十分～生田社研
テーマ　「土地政策における保有税のありかたについて―農地の宅地並課税を中心に」
報告者　森宏所員
(4)十月二十日（土）二時～神田校舎12A会議室
テーマ　「常行敏夫著『市民革命前夜のイギリス社会―ピューリタニズムの社会経済史―』（岩波書店）をめぐって」
報告者　道重一郎氏（立教女学院教諭）
今関恒夫氏（同志社大学教授）
梅津順一氏（青山女子短大教授）
◎社研グループ研究「フェルナン＝ブローデルと世界経済」G（常行敏夫所員代表）との共催
(5)十一月十日（土）三時～神田社研
テーマ　「華北を事例にした中国農村変容の歴史―抗日戦争期から現在まで」
報告者　魏宏運氏（南海大学歴史系教授）
笠原十九氏（宇都宮大学教授）
◎社研グループ研究「一九三〇～一九五〇年代の思想的・文化的・政治的研究」G（榮澤幸二所員代表）との共催

(三)　特別・合宿集中研究会

(1)　特別研究会

一九八九年が社会科学研究所創立四十周年にあたるのを記念して「四十周年記念集会―研究会とパーティー」を開催し、そのため恒例の夏季合宿集中研究会を中止した。また、中東湾岸危機からみ、学生の参加を対象に、六研究所共催で、「公開学術シンポジウム」を開催した。

イ専修大学社会科学研究所四十周年記念集会
七月七日（土）一時～神田校舎13A会議室
テーマ　「内田義彦が遺したもの」
報告者　吉澤芳樹所員「内田義彦の学問世界―〝日本から日本へ〟の経済学史研究」
長幸男所外研究員「内田義彦と日本の経済思想像」
小沼堅司所員「社会主義と市民社会―内田義彦

の所説に触れて―」

司　会　常行敏夫所員

ロ公開学術シンポジウム

十月三十一日（水）二時四十分～生田校舎三号館三三一号教室

テーマ　「中東と憲法問題」

講　師　福島新吾所員

古川純所員

◎法学研究所、経営研究所、会計学研究所、人文科学研究所、商学研究所との共催

(2)　春季合宿集中研究会―社研プロジェクト研究と共催

三月一日　上越市のジェネラル・オブザベイション

報告者　市役所商工観光課係長他

テーマ　「上越市直江津地区の産業の展開」

三月二日　工場調査―直江津テクノセンター、化成直江津、新潟沖電気、エムイーシーアロイ、日本ステンレス直江津製造所

(四)　グループ研究助成

一九九〇年度は下記の六件（1）～（6）を継続して助成し、新たに二件（7）～（8）に助成している。いずれも助成Aで、助成額は五十万円とした。なお、研究助成Aに対しては、グループのメンバーのうち、一人以上の所員が当該グループの定めた共通テーマに関連する個別テーマで、本研究所が指定もしくは承認した発表機関誌に研究成果を公表する義務が課されている。

(1)　「国際化と日本の経済と社会」（'88年度発足、以下同じ）

（鶴田〈責〉・玉垣・吉岡＊・正村・吉家・宮下・松田・中島・八林・原田・宮本・野口の十三所員　＊'90年度海外留学中）

(2)　「経営システムの国際比較」

（赤羽〈責〉・儀我＊・大西・奥村・黒川・柳・伊吹の七所員　＊研究参与）

(3)　「産業と地域―'80年代の企業・労働者・地域社会―」

（柴田〈責〉・大西・赤羽・福島（義）・広田・黒田の六所員）

(4)　「巨大産業企業の事業構造転換（リストラクチュアリング）と地域経済」

（溝田〈責〉・伊東・泉（武）・桜井・田口の五所員）

(5)　「経済統計の諸課題と国民経済計算」

（作間〈責〉・佐藤（博）・平川・黒川・松田・田路＊の六所員　＊研究参与）

(6)　「カントリー・リスクの実証的研究―国家の自由度・安定度調査」（'89年度発足）

（古川〈責〉・小林（直）＊・隅野・小沼・石村・大浜・

(7) 森川・内藤（光）の八所員　＊国内留学中）
「フェルナン＝ブローデルと世界経済」（'90年度発足、以下同じ）
（常行〈貴〉・大庭・作間・福島（義）・村上・望月（清）・八林・松浦の八所員）
(8) 「一九三〇～一九五〇年代の思想的・文化的・政治的研究」
（榮澤〈貴〉・大谷・深沢・佐藤（恭）・広瀬・伊吹の六所員）

(五) 個人研究助成

一九九〇年度は次の四件に対する助成が行われ、助成金額は十五万円とした。なお、これらの助成に対しては、交付年度より起算して原則として三年以内に、本研究所が指定もしくは承認した発表機関誌に研究成果を公表する義務が課されている。

(1) 青木信治所員「財政根拠論の展開」
(2) 黒川保美所員「社会関連会計情報の開示」
(3) 小林弘和所員「地方公共団体における財政計画のあり方に関する調査研究」
(4) 広田康生所員「首都圏郊外都市における機能変化と生活世界の変容―特に多摩市における実態調査を中心にして―」

三　『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

一九九〇年は三一八号から三二九号までを刊行した。なお、佐藤印刷㈱との印刷契約を一九八九年四月から自動延長扱いとしている。

三一八号（一九九〇年一月）
樋口淳、南富鎮、金美栄「韓国の村と昔語り」
三一九号（一九九〇年二月）
佐藤経明「ソ連・東欧の政治・経済改革」
笠原清志「東欧における変革の新段階―苦悩続くポーランドの場合」
三二〇号（一九九〇年三月）
溝田誠吾「関連・非関連製品多角化と事業部制組織の導入―戦後造船経営史(3)―」
三二一号（一九九〇年四月）
鈴木直次「わが国自動車企業のアメリカにおける現地生産（下）」
三二二号（一九九〇年五月）
内田弘「初期マルクスの『社会的諸個人』把握」
池尾愛子「平井俊顕氏のリジョインダーに反論する」
三二三号（一九九〇年六月）

凌星光「六・四天安門事件と中国民主化の展望」
池田博行「〈研究ノート〉下心あればこそ、疑心暗鬼」
三二四号（一九九〇年七月）
山田節男「情報構造とマクロ合理的期待モデル」
三二五号（一九九〇年八月）
水川侑「英国自動車工業における製造差別型寡占体制の成立(2)」
三二六号（一九九〇年九月）
石村修、木幡文徳、古川純「タイ・スタディーツアー――開発と人権」
三二七号（一九九〇年十月）
斎藤秋男「〈学術交流ノート〉'30年代・中国〝左連〟東京支部の活動――林煥平教授来日の記録――」
大谷正「閔妃殺害事件に関するコッカリルの通信」
三二八号（一九九〇年十一月）
赤羽新太郎「一九八〇年代における現代日本企業の国際化に関する一考察」
三二九号（一九九〇年十二月）
吉岡恆明「技術革新と市場構造――理論的な問題点」

四　その他の活動

(一)　文献、資料の収集と整理

1　文献、資料の収集

所員の希望をもとに統計資料を中心に文献、資料の購入・収集を行っている。平館利雄研究参与から多数のソ連関係文献の寄贈を受けた。記して謝意を表したい。

購入の一例を掲げると

(i)『西洋思想大事典』第一～四巻
(ii) "Paul A Samuelson Critical Assessment" Vol. 1～4
(iii)『日米国際産業関連表』一九八五年
(iv) "Statistical Abstract of the United States, 1990"

2　文献資料の整理

収集した文献の登録（グループ研究助成・個人研究助成などで購入した文献を含む）と、雑誌の製本を行っている。

(二)　コンピューターの利用

1　以下のソフトを購入した。

一太郎作成ツール（ワープロソフト一太郎で数式を書くためのソフト）

エコノメイトマクロ経済モデル九〇年版（マクロモデル最新版）

エコノメイトマクロデータファイル九〇年版（データ最新版）

アシストカルク（表計算ソフト）

2　以下の講習会を実施した。

(1)六月十三日（水）一時～生田社研

石塚良次所員「パソコン入門」（PC9800の使い方）

(2)十月二十日（水）一時～生田社研

石塚良次所員「パソコン入門」（ロータス1―2―3）

（泉武夫記）